

# 弘大COIが総理大臣賞

## 日本オープンイノベーション大賞・最高賞

短命県返上や世界に通用する健康増進モデルの構築を目指し、弘前大学を拠点に行われている「弘前大学COI」の取り組みが、内閣府主催の「第1回日本オープンイノベーション大賞」で、最高賞の内閣総理大臣賞に選ばれた。5日、内閣府が発表した。

(太田佳希)



弘前市若木地区の大規模健診。スタッフとして医師や市民ボランティア200人以上が参加し、企業の担当者も各地から集まる。

### 大規模健診データで「寿命革命」 産学官民の取り組み評価

同大賞は、組織の壁を超えた技術革新に挑戦する「オープンイノベーション」の模範的なプロジェクトをたたえるもので、これまでの産学官連携功労表彰制度を新たに見直しして創設された。今回は全国から212件の応募があり、内閣総理大臣賞や政府各省の大臣賞など12の賞を計14プロジェクトが受賞した。

内閣総理大臣賞に輝いた弘大COIの取り組みは「超多項目健康ビッグデータで『寿命革命』を実現する健康未来イノベーションプロジェクト」。弘大、マルマンコンピュータサービス(弘前市)、花王(東京)に贈られる。

弘大COIは、弘大が2005年から弘前市若木地区で行っている大規模健診で得られたビッグデータを活用し、認知症や生活習慣病などの予防法・予防法を開発する取り組み。地元企業や自治体をはじめ、ヘルスケアや食品分野の大手企業、東京大や京都大の研究などが参画している。

オープンイノベーションの先駆的事例として、17年版の科学技術白書では「市民、自治体(国)、大学、企業」といった全てのステークホルダーが、健康寿命の延伸という社会的な共通価値の創出に向けて協働している例といえる」と評価された。

弘大COI拠点長の中路重之弘大特任教授は「短命県返上のために産学官民挙げた取り組みが日本一と評価されてうれしい。先が長いプロジェクトで、受賞は青森県民へのエールだと思っている」と語った。

COI「Center of Innovation」(センター・オブ・イノベーション)の略。10年後の社会を見据え、文部科学省が2013年にスタートさせた国家的プロジェクト。挑戦的で実用化への期待が大きい研究テーマに対し、最長9年、年間最大10億円程度の研究開発費を集約的に支援する。弘大や東京大、京都大など全国18拠点が採択されている。

総理大臣賞のほか、東北大学などによるリアルタイム津波浸水被害予測システムの開発と運用が総務大臣賞に、東日本旅客鉄道(東京)などのチームが経済産業大臣賞に選ばれた。表彰式は3月5日、東京都の虎ノ門ヒルズで行われる。